17. Adult T-cell lymphoma leukemia 患者に対するガリウムシンチグラフィ

原田 邦子 星 博昭 陣之内正史
尾上 耕治 長町 茂樹 小沢 美幸
森 由紀子 渡辺 克司 (宮崎医大・放)

Adult T cell lymphoma leukemia 患者20例にガリウムシンチグラフィをおこない臨床的検討をおこなった. 使用した装置は Maxicamera 400 T (G.E.), LFOV (Searle Radiographics) であり, 中エネルギコリメータを装着した. 検査方法は ^{67}Ga-citrate 3 mCi 静注後72時間後に全身のスポットを撮像した. 異常集積がみられたものは20例のうち16例で臓器別陽性例数では表在リンパ節3例, 深部リンパ節7例, 肺9例, 肝1例, 骨1例であった. ガリウムシンチにて新たな病巣が検出されたのは8例であった. また, 異常集積のみられたものは末血白血球数, 血清 LDH が高い傾向にあった.

18. 扁平上皮癌関連抗原 (SCC) RIA キットの臨床的検討

陣之内正史 星 博昭 森 由紀子
原田 邦子 尾上 耕治 長町 茂樹
小沢 美幸 渡辺 克司 (宮崎医大・放)

悪性腫瘍94例, 良性疾患10例および正常対照16例を対象に血清 SCC 値の臨床的検討を行った. 測定にはダイナボット社製 SCC RIA キットを用いた. 正常例の SCC 値は 1.45±0.24 ng/m*l* で, 2.0 ng/m*l* をカットオフレベルとした. 頭頸部扁平上皮癌の陽性率は, 33例中10例30%で, stage が進行するほど高くなる傾向がみられた. 肺癌の陽性率は, 34例中14例33%, とくに扁平上皮癌では13例中8例62%と高かった. 食道癌では4例中2例50%で, 他の悪性腫瘍の陽性率は低かった. CEA 値と SCC 値とは, 頭頸部扁平上皮癌では軽度の相関がみられ (r=0.55), 肺癌では相関がみられなかった (r=0.01).

19. Neuron-Specific Enolase (NSE) RIA キットの臨床的検討

森 由紀子 星 博昭 陣之内正史
原田 邦子 尾上 耕治 長町 茂樹
小沢 美幸 渡辺 克司 (宮崎医大・放)

悪性腫瘍94例, 良性疾患8例, 合計102例を対象として, 血清 NSE 値の臨床的検討を行った. 測定には, 栄研の NSE (γ-エノラーゼ) キットを用い, 判定は10 ng/m*l* 以上を陽性とした. 肺癌の陽性率は32例中9例, 28%で, 小細胞癌6例のうち5例が陽性であった. 臨床病期別では stage I～II に陽性例はなく, stage III の11例中2例, stage IV の18例中7例が陽性であった. NSE 値と CEA 値の相関はみられなかった. 肺癌以外の悪性腫瘍は62例中13例, 21%が陽性であり, 良性疾患8例は全例陰性であった.

20. β_2-マイクログロブリン測定の基礎的・臨床的検討

吉田 喜策 一矢 有一 綾部 善治
桑原 康雄 和田 誠 松浦 啓一
(九州大・放)
上山 昭子 (同・放部)

ダイナボット社製 β_2-マイクロ・RIA KIT の基礎的, 臨床的検討を行った. 基礎的検討では同時再現性, 日差再現性, 回収率, 希釈試験ともに良好であった. 健常者66名での測定値は 0.80±0.25 mg/*l* (mean±S.D.) であり, 1.3 mg/*l* 以下を正常値とした. 臨床例での検討では, 主に腫瘍マーカーとしての意義を検討した. その結果, 良性肝疾患95例での陽性率は 58.9%, 悪性疾患221例では61.5%であり, 両者で大差なく, また疾患特異性も見られなかった. 胃癌, 大腸癌60例で CEA との相関を, 肝癌74例で AFP との相関を検討したが, β_2-マイクログロブリンとこれらの間に相関関係は見られなかった.

Presented by Medical*Online